

# 戰時國民幼稚園

(十) 大國民の根を培ふ

## 倉橋惣三

この長期の戦争、この遠大の建設、これに耐へ、これを完遂するもの、要するに大國民でなければならぬ。戦時下の國民教育は、即ち大國民性の錬成である。戦時下國民幼稚園はその高邁なる教育の基底を擔ふものである。

幼稚園の名に於て始められた教育に、種々の動機があつた。しかも日本の幼稚園の動機は一つ。皇國民錬成の根柢の啓培にある。その他の何ものでもない。而して、今日の皇國民は、實に日本民族が内藏し來つた大國民性を未曾有の大規模に於て、實現し實行するものでなければならぬ。國民幼稚園は幼き全國民の性格を、最初からその方向に導ひ導いてゆくことを委任せられてゐる。

大國民性の實質内容は、逐月述べ來れるところの諸點の、その渾然たる一大綜合である。それ等は個々の行動として必要であると共に、大國民性のあらはれしめて貴重せられるのである。事に當つて憂ふるも、喜ぶも、耐ゆるも、進むも、皆、大國民性によつてなくてはならぬ。時によつて適宜の態度にいづるも、不動の沈著さ雄大に一貫し、着々また悠々、百年の大計を失ふことなき、大國民性によつてなくてはならぬ。

大國民教育は、その目的の實質に於て大國民的でなければならぬと共に、その教育の進行に於ても大國民的でなければならぬ。大國民は要するに實力の大である。眞に實力の伴はない形式的、焦慮的、速成的、間にあはせ的教育で、到底それが得られるものではない。殊に、根からの強固を缺いて、たゞに結果に急な教育によつて、決して得らるべきものでない。大國民の教育は、その教育の進行に於ても、常に、雄大と共に不動、着々と共に悠々でなければならぬのである。

幼児教育は、眞の實力をその根に於て用意するものである。時局事態の急に備ふると共に、常に、根に培ふことを忘れざるもの、教育の大國民性は、そこにこそ出發する。

(この朝、ソロモン海邊復たゞの大戦果も同方面陸軍部隊勇戦の新發表を聴く。皇軍の奮闘に對し、遠く南海の方向に向つて感謝の至念を捧ぐ。本年の巻頭の蕪辭、筆を戦果の感激に起し、筆を戦果の感激に擱く。國民幼稚園をして、この戦果に應へしめずして相濟まうや。——水雨荒く降る新潟の宿にて)